

政策提案書／意見書

件名:WLTC モードにおける速度違反加算モード(赤キップ想定)の導入と公表義務化に提案

提出先:国土交通省・環境省・警察庁 様 自動車メーカー各位

提出者:岡田康博・個人(氏名・所属) 提出日:_____

【提案の背景】 現行の WLTC モードは、現実の運転パターンに近づけた燃費・CO₂ 排出測定として一定の成果を上げていますが、依然として多くの実走行環境では速度超過や急加速といった非エコな運転が見受けられます。これにより、CO₂ 排出量の増加、タイヤ摩耗粉やブレーキダストによる大気汚染、そして交通事故リスクが高まっているのが現状です。

【提案の要点】

1. WLTC モードにおいて、以下の新たな走行モードを導入： - WLTC 赤キップモード(速度違反加算モード) → 法定速度+15~40km/h の走行パターンを追加設定
2. 各車種に対し、以下の数値をカタログ等に明示： - WLTC 標準モード(現行) - WLTC 赤キップモード(違反時) - 両者の比較： - 燃費 - CO₂ 排出量 - タイヤ摩耗推定値 - ブレーキダスト排出量
3. 燃費表示や環境性能表示において「つくる責任・つかう責任(SDG12)」の観点を反映： - モラルある使用者像(善人モード)と無謀運転者像(前科付きモード)を対比表示

【期待される効果】

- ・ 速度違反抑止: 赤キップモードの可視化により、ドライバーの速度意識が向上
- ・ 環境負荷の削減: CO₂・PM_{2.5}・ブレーキダストの削減促進
- ・ 使用者教育: 環境と安全に配慮した運転行動の促進
- ・ メーカー競争力強化: エコ性能の訴求強化、新たな差別化ポイントの創出

【法制度・実務面の連携】

- ・ 国土交通省: 型式認証時の新基準設定
- ・ 環境省: PM 排出・CO₂ 排出の監視義務づけ
- ・ 警察庁: 違反速度帯の設定データとの整合性確保

【まとめ】 今後のモビリティ社会は、安全性と環境性能の両立が求められます。本提案は、“使い方の可視化”を通じて、ドライバー一人ひとりの責任ある選択を促す社会的ツールとなることを目指しています。

以上、真摯なご検討をお願い申し上げます